

マタイ 50

神の国の希望が 平和をもたらす

マタイ福音書20:1～16

ぶどう園の主人のたとえ

Shikaoichurch.com

「平和をつくる者は 幸いです。

その人たちは

神の子どもと呼ばれるからです。マタイ5:9」

あなたの心に平和がありますか？

「神の国」の希望が、平和をもたらす

プロローグ 神との平和の喪失

①イスラエルが待ち望んだ「神の国」

**②“ぶどう園の主人”のたとえに学ぶ
「神の国」**

③「神の国」の平和の恵みにあずかろう



イスラエル・アーモンドの花



プロローグ 「神との平和」の喪失



「はじめに神が天と地を創造された。」

旧約聖書 創世記1章1節

「神はご自分が造ったすべてのものを見られた。
見よ、それは非常に良かった。創世記1:31」



神の平和に満ちた世界に人は誕生した

破られた神との約束



最初の人、アダムは、
蛇(サタン)にそそのかされ、
神との約束を破り、
禁じられていた実を食べた。

神との約束を破った = **罪**
罪を犯した瞬間、
人は**神から断絶**された(= **死**)

神は、蛇を裁くと同時に、
罪からの解放者である、
キリストの到来を予告された。

神の救いの約束

- 神は人を見捨てず、いつか必ず
救い主(メシア=キリスト)を送ると約束。

「わたしは敵意を、**おまえ**と女の間、
おまえの子孫と**女の子孫**の間に置く。
彼は**おまえ**の頭を打ち、**おまえ**は**彼**の
かかとを打つ。創世記3：15」

- **メシア**は、普通ではない方法で誕生。
犠牲を払って、**悪魔**に勝利される。



罪ある人に平和は作れなかった



人は罪を重ね、世界は大洪水で裁かれた。

再び増え広がった人類は、
またしても神に逆らい、
共通の言葉を失い、
全地に散らされた。

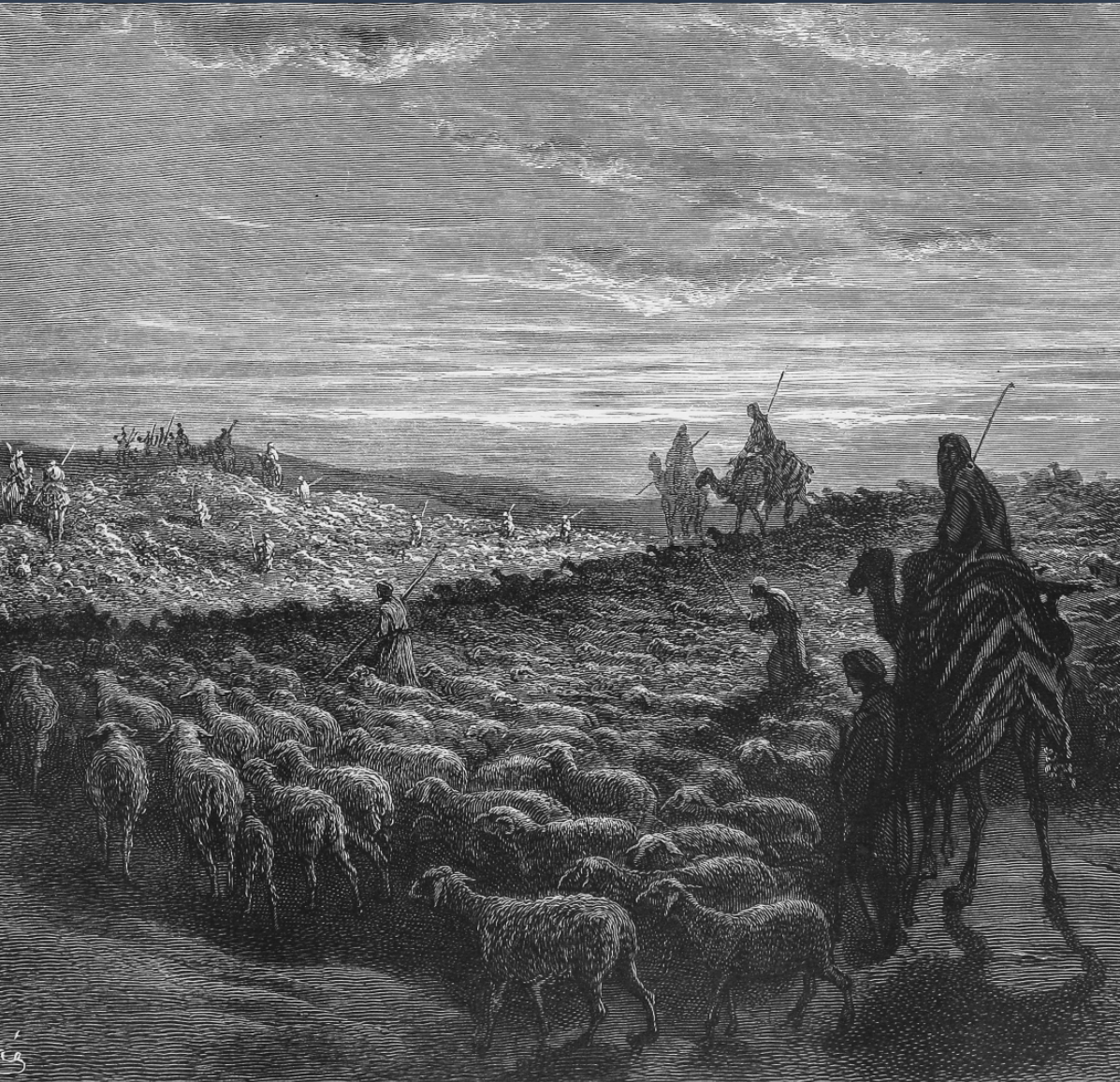
滅びにひた走る人間のため、
神の救いの計画が、
一人の人から始まっていく。



①イスラエルが待ち望んだ「神の国(天の御国)」

アーモンド畑

イスラエルの始まり



罪に満ちた世界を救うため、
神は、何者でもない、
年老いた一人の人を選んだ。
それが、アブラハム。

アブラハムは、神に従い、
見知らぬ地へ旅だった。
神は、約束された。

→アブラハムの子孫から
全人類を救いに導く
メシア(キリスト)が誕生!!

イスラエル民族の誕生



アブラハムの子孫は、
約束の土地を襲った飢饉を逃れ、
エジプトに移り、奴隷となった。

それでも子孫は増え続け、
400年後には、約200万人に!!

彼らは、モーセを指導者として、
神に導かれてエジプトを脱出。
奴隷から解放された。

→神の民・イスラエルの誕生

イスラエル王国の滅亡



神の民・イスラエルは、
約束の地で、王国を築き、
エルサレムを都として栄えた。

しかし、神との約束を破り、
人が作った偶像の神を拝み、
神の祝福を失ってしまった。

イスラエルの王国は、ついに、
バビロニア帝国により滅ぼされ、
多くの者が捕虜として連行された。
(バビロン捕囚 BC586年)

「神の国」の預言

神は、イスラエルを見捨てず、はるかな将来の希望を告げた。

「国と、主権と、天下の国々の権威は、いと高き方の聖徒である民に与えられる。その**御国**は**永遠の国**。すべての主権は彼らに仕え、服従する。ダニエル書7:15』

メシアが、神の国を建て、イスラエルに永遠の平和を与える。



メシアの誕生



数百年の苦難の末、ローマに支配されたイスラエルに、**メシア(キリスト)**が誕生。

貧しい乙女マリアから、家畜小屋で生まれ、飼い葉桶に寝かされた。

その姿は、神の国の王とはほど遠いものだった。

メシアの活動の開始



「悔い改めなさい。**天の御国**が近づいたから。マタイ3:2」

メシアの活動をイエスは開始。重い病や障害をいやし、嵐を一声でしずめられた。神の奇跡は、メシアの証拠。

しかし、イスラエルの指導者たちは、悪魔の業だとイエスを激しく拒絶した。

「神の国」のたとえ話



「メシアではない」と拒絶されたイエスは、たとえ話で、**神の国**について教え始められた。

たとえ話の本当の意味は、弟子たちだけに教えられた。

イエスの弟子となっていたのは、学もないと蔑まれていた人、罪人と呼ばれ、のけ者にされていた、「小さな者たち」だった。



②“ぶどう園の主人”のたとえに学ぶ神の国

マタイ20:1～16

イスラエルのぶどう畑

②神の国のたとえ マタイ20:1～2

天の御国は、自分のぶどう園で働く者を雇うために朝早く出かけた、家の主人のようなものです。

彼は労働者たちと一日一デナリ*の約束を
すると、彼らをぶどう園に送った。

*1デナリ…ローマの銀貨。日給の相場。

■ぶどう園 …神の国

ぶどう園の主人 …創造主である神

労働者 …神の国の民

(神を信じた人々・信仰者)



②神の国のたとえ

マタイ20:3～4

彼はまた、九時ごろ出て行き、別の人たちが市場で何もしないで立っているのを見た。

そこで、その人たちに言った。『あなたがたもぶどう園に行きなさい。相当の賃金を払うから。』

彼らは出かけて行った。主人はまた十二時ごろと三時ごろにも出て行って同じようにした。



②神の国のたとえ

マタイ20:6~7

また、五時ごろ出て行き、別の人たちが立っているのを見つけた。そこで、彼らに言った。『なぜ一日中何もしないでここに立っているのですか。』

彼らは言った。『だれも雇ってくれないからです。』主人は言った。『あなたがたもぶどう園に行きなさい。』



②神の国のたとえ

マタイ20:8～9

夕方になったので*、ぶどう園の主人は監督に言った。『労働者たちを呼んで、最後に来た者たちから始めて、最初に来た者たちにまで賃金を払ってやりなさい。』

そこで、五時ごろに雇われた者たちが来て、それぞれ一デナリずつ受け取った。

*当時の一日は、日没まで。

日付が変わるまでに給与を支払う定めが。
レビ記19:13



②神の国のたとえ マタイ20:10～12

最初の者たちが来て、もっと多くもらえるだろうと思ったが、彼らが受け取ったのも一デナリずつであった。

彼らはそれを受け取ると、主人に不満をもらした。

『最後に来たこの者たちが働いたのは、一時間だけです。それなのにあなたは、一日の労苦と焼けるような暑さを辛抱した私たちと、同じように扱いました。』



②神の国のたとえ マタイ20:13

しかし、主人はその一人に答えた。

『友よ、私はあなたに不当なことはしていません。あなたは私と、一デナリで同意したではありませんか。あなたの分を取って帰りなさい。私はこの最後の人にも、あなたと同じだけ与えたいのです。』



②神の国のたとえ マタイ20:15～16

自分のもので自分のしたいことをしてはいけませんか。それとも、私が気前がいいので、あなたはねたんんでいるのですか。』

このように、後の者が先になり、先の者が後になります。」



② 神の国のたとえ

“ぶどう園の労働者”の意味

- ① ぶどう園 …メシアが建てられる、“神の国(天の御国)”
- ② 主人 …神の国の主人 = 天地を創造し支配される神
- ③ 労働者 …神の国の民 = メシアを信じた信仰者
- ④ 労働時間 …信じて歩んできた年数、働き
- ⑤ 賃金 …神の国で与えられる報酬



問題になるのは、賃金 = 神の国での報酬

②神の国のたとえ

ポイントを押さえよう!!

- 労働時間 …朝(6時) = 12時間、9時 = 9時間、
12時 = 6時間、3時 = 3時間、5時 = 1時間
- 賃金 …一律、1デナリ

- ポイント① →主人は、1日1デナリの約束は守っている
- ポイント② →怠けていて働かなかったのではない
雇われない事情が …高齡？障害？
- ポイント③ →生きていくのに必要なお金は皆同じ。
明日を生きるために必須の1デナリ。

②神の国のたとえ

主人の問いかけ

『自分のもので自分のしたいことをしてはいけませんか。それとも、私が気前がいいので、あなたは**ねたんで**いるのですか。マタイ20:15』

- 「後から来た奴が、同じ額をもらうのが、ゆるせない」
→ 特別扱いへの**嫉妬**。「私は前から働いてるのに!!」

イエスが教えているのは、「神の恵み」

“恵み”…資格がない者に、神が一方向的に与えるもの


②神の国のたとえ

結論 すべては恵み

『このように、後の者が先になり、
先の者が後になります。マタイ20:16』

- 働く場も、報酬も、すべては、神からの恵み。
 - ➔最大の恵みは、**神の国の約束そのもの**
- ただメシアを信じた者に、神の国の恵みは与えられる。
 - ➔自分に与えられた恵みを感謝して受けとるだけ

他者と比べて嫉妬?! 信仰はどこに行った?




③「神の国」の平和の恵みにあずかろう

イスラエル・ぶどう畑

まとめ

聖書が教える「神の国」

- 地上の最初の**神の国**は、人の罪によって壊れてしまった。罪ある人は、平和を造り出すことはできなかった。
- 神は一方的に約束された。アブラハムの子孫、イスラエルから、メシアが誕生、**神の国**を再建される。
- イスラエルの苦難の末に誕生されたメシアは、「**神の国**」は、信じた者に与えられる**恵み**だと教えられた。



メシア＝キリストであるイエスは、
私たちの罪のため、十字架で死なれ、
葬られ、死を打ち破って復活された。

↑
良い知らせ・福音

「神の国」に入るために、信じる必要があること

福音を信じた誰もが、神の国の恵みを与えられる

- “私の罪のために、十字架で死なれ、復活された、イエスをキリスト(メシア)、救い主として信じること。”
- 人は、この**福音**を信じて、ただ信仰と恵みによって救われる。
…クリスチャン家庭に生まれ育った人も、信仰歴の長い人も、最近信じた人も、子どもでも、関係ない。
- 福音を信じた人は、永遠に神の国の国民になってる!!
→この恵みは、だれもが同じ

私たちは、なぜ苦しくなるのか？

■ アダムは、神のようになりたいと思って約束を破った。

→ **罪の根源は、“与えられた恵みに満足しない”こと**

■ 罪人である私たちは、人のものが欲しくなる。

…人の物、人のお金、人の恋人、家族、友人、
人の称賛、人の注目、人の特別扱い…etc

■ 私たちは、人のものを欲して罪を犯す

信仰上の靈的嫉妬の罠に気をつけよう!!

■ 不平を言ったぶどう園の労働者を反面教師に!!

…自分は十分な恵みを与えられているのに、
人が恵みを得ているのが気に入らない

→靈的嫉妬

■ 神様に用いられている人を素直に祝福できている？

■ 子どもたちの信仰の成長を共に喜んでいる？

嫉妬ってなんだろう？ 嫉妬の本質を考える

- 私たちは、人のものを欲して嫉妬する。
→ 嫉妬は、罪から出ている。
- 神のような知識を得たいと、人は最初の罪を犯した。
→ 人のことを必要以上に知りたい。これも罪
- 詮索好きな人は、例外なく、嫉妬深い人、支配的な人。
自分が知っていないと気が済まない。それも罪。
→ 必要なことは知らされる。必要以上に求めない!!

私たちの平和が失われるとき

- 私の罪のために、十字架で死なれ、復活された、主イエスを信じて与えられた、罪の赦しの救いの恵み。
→ 永遠に神の国の民とされ、神の栄光が待っている
- 神への喜びと感謝から自発的に生まれるのが、奉仕。
→ 神の恵みを味わいつつ、喜びもって働いているか？
- 動機が歪むと苦しくなる。他者への嫉妬も生まれてくる。
…自分が注目されたい。誉められたい。認められたい。

★ 神の国の平和の恵みにあずかろう!! ★

- 信仰者の使命は、神の平和を世に、人々にもたらすこと。
なのに、人が恵みを得ているのが気に入らない、とは？
- 福音を信じて与えられた、恵みをよく噛みしめよう。
喜びと感謝をもって日々に遣わされていけるように。
- 神の約束に基づく恵みをこそ、深く知っていこう。
日々の中で、身をもって、恵みを味わい知らされてこう。